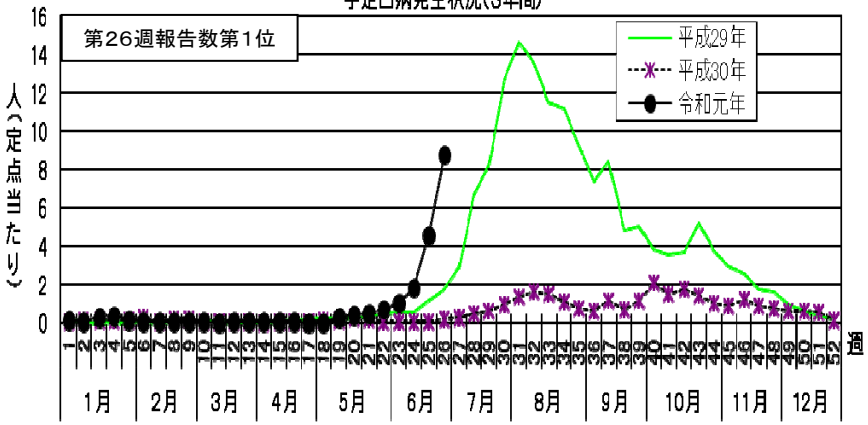
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

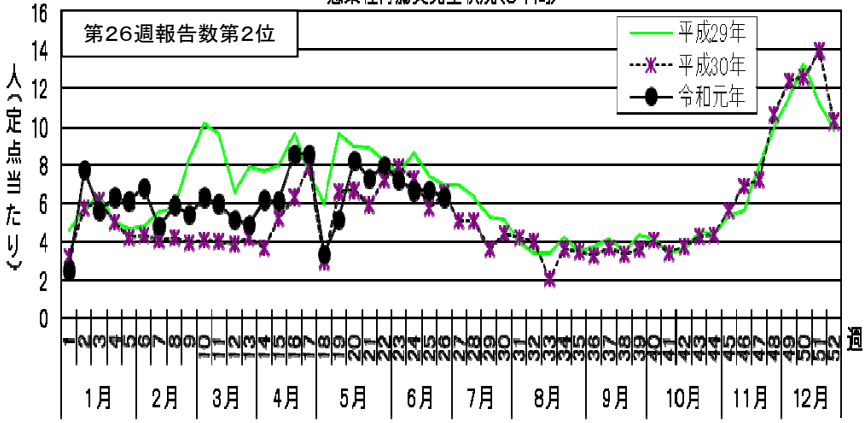
令和元年６月２４日（月）～令和元年６月３０日（日）〔令和元年第２６週〕の感染症発生状況

第２６週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病　2)感染性胃腸炎　3)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
手足口病の定点当たり患者報告数は８．７６人と前週（４．５７人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は６．３２人と前週（６．７０人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は３．３８人と前週（３．７８人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

手足口病発生状況(3年間)



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



手足口病流行発生警報発令！

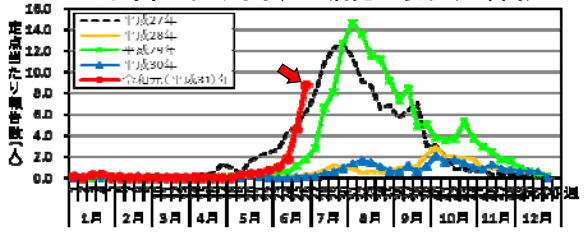
川崎市では、手足口病の令和元年第２６週（６月２４日～６月３０日）の定点当たり報告数が８．７６人となり、流行発生警報基準値（定点当たり５．００人）を超えたため、市内に流行発生警報を発令しました。

手足口病はヘルパンギーナとともに夏季に流行する疾患として知られていますが、通常は１年毎に交互に流行がみられます。今年はすでに、手足口病の患者報告数が急増しており、大きな流行が予測されます。また、ヘルパンギーナも今週の定点当たり報告数が１．８１人と前週（定点当たり０．８４人）から増加しており、今後の発生状況に注意が必要です。

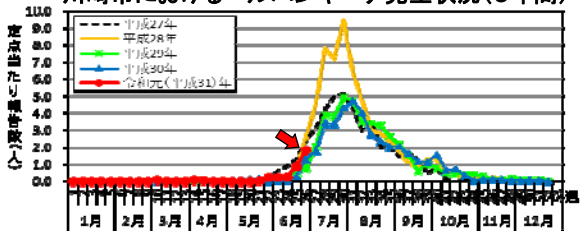
手足口病、ヘルパンギーナの主な特徴

	手足口病	ヘルパンギーナ
病原体	コクサッキーウイルスA群（6型、16型）、エンテロウイルス71型など	コクサッキーウイルスA群（2型、4型）、コクサッキーウイルスB群、エコーウイルスなど
感染様式	飛沫感染、接触感染、糞口感染	
好発年齢	5歳以下の乳幼児	
主な症状	手のひら、足の裏、口の中などに水疱性の発疹、発熱（38℃以下のことが多い）	突然の高熱（38～40℃）、咽頭痛（のどの痛み）、のどに白い水疱性の発疹や潰瘍
経過	通常は軽症	通常は2～4日程度で解熱
合併症	まれに髄膜炎や脳炎など	熱性けいれん、まれに髄膜炎や心筋炎など
予防対策	・トイレやおむつ交換後の排泄物の適切な処理及び流水による念入りな手洗い ・経口補水液などでこまめに水分補給 ・タオルの共用は避ける	

川崎市における手足口病発生状況(5年間)



川崎市におけるヘルパンギーナ発生状況(5年間)



川崎市 KAWASAKI CITY

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター
（福祉事務所・保健所支所）
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０